

巻頭言

筑波大学理療科教員養成施設紀要 創刊にあたって

筑波大学理療科教員養成施設長

宮本俊和

創刊に当たり、本紀要の発刊までの経緯と目的についてお話しします。

筑波大学理療科教員養成施設は、明治36年（1903）に創立した東京盲啞学校教員練習科に始まり、幾多の変遷を経て現在まで一貫して理療科教員養成を行ってきました。

視覚障害者の鍼灸、按摩の教育は、1862年に杉山和一により開設された「鍼治講習所」で行われて来ましたが、1871年に太政官布告により廃止されました。1874年には「医制」が交付され、東洋医学から西洋医学への転換が図られました。

一方、教育面では、1872年に「学制」が發布されてわが国は国民皆学を目指すこととなります。1881年より、楽善会訓盲啞院（筑波大学附属視覚特別支援学校の前身）は保護者の社会的要求から按摩を取り入れることになり、1884年に按摩科（現在の理療科）を設け、1903年には東京盲啞学校に教員練習科が附設されて理療科教員養成が始まり、現在、本施設へと引き継がれています。

昭和20年（1945）年8月15日に終戦となり、1947年には連合国軍総司令部から鍼灸の禁止令が出され、「鍼灸存廃問題」が起こります。鍼灸界、盲教育界、視覚障害団体が一丸となって鍼灸存続の運動を起こします。文部省は「特殊教育教員再講習会」を開催しますが、この講習会は現在も「自立教科等担当教員（理療）講習会」として続いています。また、鍼灸の科学を目指し、芹澤勝助先生を中心に東京大学を始めとした医学研究機関との共同研究を行う契機となります。厚生省、文部省、東京都などから研究助成を得て、数多くの研究成果を医学会、鍼灸会に発信してきました。

1978年には明治鍼灸短期大学が開学し、その後鍼灸関連の大学が続々と認可されてきます。また、2000年以降は、鍼灸専門学校が急増しているために晴眼の鍼灸師が増加しています。その一方で、盲学校理療科に入学する生徒数は減少しています。このような状況の中で、「数百年継承してきた視覚障害者の職業としての鍼灸」を発展・継続するための方策を考えることが急務となっています。

その対策として最も大事なことは、理療科教員の資質の向上だと思っています。理療科教員が最新の研究論文にアクセスし、教育の現場に反映する方法と教育現場の成果や工夫を論文にして発表できる場を作る必要を感じ、このたび「筑波大学理療科教員養成施設紀要」を発刊することになりました。

現在、理療（鍼灸マッサージ）教育を巡る課題は、①教育面では教員の資質向上、②研究面では国内外に向けた研究成果の発信、③臨床面では超高齢社会への対策があげられます。これらの課題を解決するためには、それぞれの関係者が考えを述べ、意見を交えることが重要だと考えています。

理療科教員養成施設の使命は、盲学校理療科を担当する教員を養成するとともに、理療に関する基礎的・臨床的研究を行うことです。これまで、本学学生や教員の研究成果や活動内容は施設内の関係者のみが共有し、学外の方の目に触れることが少なかったことから、本紀要の発刊は様々な方からの評価をいただく絶好の機会だと考えております。本学を卒業した教育者、研究者、臨床家のみならず理療教育関係者に広く投稿を求め、質の高い紀要を目指すとともに、学外の多くの方の交流の場となることを願っています。

2015年12月1日
